

第1回 富田林市金剛地区再生指針策定協議会 会議録

日 時：平成28年7月1日（金） 午前10時～12時

場 所：富田林市役所3階 庁議室

出席者：○協議会委員 16名

友田委員、中井委員、溝口委員、山田委員、吉村委員、増田委員、小野委員、
原山委員、寺田委員、岡本委員、藤本委員、中谷委員、中西委員、井筒委員、
三崎委員、北野委員

【欠席】

市川委員、東委員

○事務局 7名

まちづくり政策部 坂本次長

まちづくり推進課 仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、
阪谷主幹、坂口地域整備係長、羽田主査、竹内

○コンサルタント 3名

株式会社市浦ハウジング&プランニング 小倉、西村、大庭

○傍聴人 1名

会議記録

（事務局：仲野）

おはようございます。お待たせいたしました。

ただいまから、第1回富田林市金剛地区再生指針策定協議会をはじめさせていただきます。

皆様方には、何かとお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、本日司会をさせていただきます、まちづくり推進課の仲野でございます。よろしくお願いいたします。

本日は委員委嘱後、初めての協議会でございますので、開会に先立ちまして多田市長より、委員の皆様へ委嘱状をお渡しさせていただきます。

なお、交付につきましては、委員を代表していただき、金剛地区再生指針策定協議会設置要綱第3条第2項第1号、市民委員の友田様にお渡しさせていただきます。

友田様、こちらの前の方までよろしくお願いいたします。

(多田市長)

委嘱状、友田研也様。富田林市金剛地区再生指針策定協議会委員を委嘱します。平成28年6月2日。富田林市長、多田利喜。

(事務局：仲野)

ありがとうございました。

ここで多田市長より、ご挨拶を申し上げます。

(多田市長)

第1回富田林市金剛地区再生指針策定協議会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆様方におかれましては、ご多用にも関わりませず、ご出席を賜り、誠にありがとうございました。

また、当協議会委員へのご就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、本市金剛地区は、高度成長期に開発され、閑静でゆとりのある戸建住宅地や西日本で最大規模のUR賃貸住宅を有するとともに、様々な都市基盤が充実した、だれもがあこがれるまちとして成長してまいりました。

しかし、開発後約半世紀が経過し、近年は人口減少、少子高齢、施設の老朽化をはじめ、それらを起因とする様々な問題が顕在化しております。

ピーク時に2万5000人を超えていた地区の人口は、30%以上も減少しており、高齢化率におきましても、既に40%を超えているところもあり、これは、めざし国立社会保障・人口問題研究所が推計する将来人口において、2040年に本市が直面する高齢化率に迫る数値であります。

本市の西の玄関口として、市の成長を支えてきていただいた金剛地区の衰退は、市全体の活力低下につながる恐れもあり、市としましても地区の活性化は重要な課題であると認識しております。

このような状況の中、これらの問題を解決しながら、地区に新たな活力や魅力を創出し、だれもが安全・安心・快適に暮らし続けることができるまちづくりをめざし、地区の将来像や活性化に向けた取り組み方針等を示す「金剛地区再生指針」の策定を進めています。

地区の活性化に向けては、住民の皆さんをはじめ、地域活動団体、事業者等が力を合わせてまちづくりを進めることが重要であります。

委員の皆様方には、どうか忌憚のないご意見をいただき、未だ秘められた数多くのポテンシャルを持つこの金剛地区が再び煌くことができるよう、お力添えを賜りたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

(事務局：仲野)

ありがとうございました。

恐れ入りますが、市長は他の公務のため、ここで退席させていただきますので、よろしく願い申し上げます。

(事務局：仲野)

それでは、あらためまして富田林市金剛地区再生指針策定協議会をはじめさせていただきます。

まず、配布資料の確認をさせていただきます。次第、資料1～9、参考資料1～2、それぞれの資料の右上に番号を付けてありますので、ご確認をお願いいたします。資料の過不足等はございませんでしょうか。

また、委嘱状につきましては、封筒に入れて、お手元に置かせていただいておりますので、よろしくをお願いいたします。

また、本日は委員の過半数のご出席をいただいております、設置要綱第5条第2項により協議会が成立しておりますことをご報告申し上げます。

早速ですが、議事に入る前に、事務局からお知らせがございます。

本協議会は、本市の「会議の公開に関する指針」により公開することになっておりますので、会議録作成のための録音と、協議会の状況を報告するための写真撮影を行いますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

なお、会議録につきましては、発言者の名前も公表して作成することについても、あわせてご了承願います。

また、本日は1名の傍聴を希望される方がお越しになっており、既に入室していただいておりますことをご報告させていただきます。

傍聴をされる方をお願いいたします。本日の協議会資料と一緒に配布しております「会議の傍聴に係る遵守事項」を守り、議事の円滑な運営が行えますようご協力をお願いいたします。

それでは、委員の皆様方を、名簿順にご紹介させていただきます。

市民委員の友田委員でいらっしゃいます。

同じく 中井委員でいらっしゃいます。

同じく 溝口委員でいらっしゃいます。

同じく 山田委員でいらっしゃいます。

同じく 吉村委員でいらっしゃいます。

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授の増田委員でいらっしゃいます。

大阪府立大学 教育福祉学類 教授の小野委員でいらっしゃいます。

富田林市民生委員児童委員協議会 副会長の原山委員でいらっしゃいます。

特定非営利活動法人きんきうえぶ 事務局の寺田委員でいらっしゃいます。

特定非営利活動法人ふらっとスペース金剛 代表理事の岡本委員でいらっしゃいます。

独立行政法人都市再生機構 西日本支社 住宅経営部 ウェルフェア推進チーム リーダーの藤本委員でいらっしゃいます。

南海電気鉄道株式会社 経営政策室 経営企画部 課長の中谷委員でいらっしゃいます。

金剛ショッピングモール店主会 理事の中西委員でいらっしゃいます。

一般財団法人富田林市福祉公社（富田林市第三圏域地域包括支援センター けあぱる金剛）の井筒委員でいらっしゃいます。

大阪府 住宅まちづくり部 都市居住課 課長の三崎委員でいらっしゃいます。

富田林市 まちづくり政策部 部長の北野委員でございます。

なお、社会福祉法人富田林市社会福祉協議会 総務・事業推進課 課長の東委員、金剛銀座街商店会 会長の市川委員におかれましては、本日所用のため、ご欠席との連絡をいただいております。

引き続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。
まちづくり政策部 次長の坂本でございます。
まちづくり推進課 課長代理兼政策係長の尾崎でございます。
同じく 主幹の阪谷でございます。
同じく 地域整備係長の坂口でございます。
同じく （地域整備係）主査の羽田でございます。
同じく （地域整備係の）竹内でございます。

富田林市金剛地区再生指針策定支援業務を受注していただいております、
（株）市浦ハウジング&プランニングの小倉でございます。
同じく 西村でございます。
同じく 大庭でございます。

そして私、まちづくり推進課の仲野でございます。

続きまして、会長、副会長の選出にうつらせていただきます。

本協議会の設置要綱第4条第1項では、委員の互選により定められておりますが、どのように取り計らいましょうか。

(友田委員)

事務局一任でいいんじゃないでしょうか。

(事務局：仲野)

事務局一任の声がありましたので、事務局の方から推薦させていただきます。

会長は、以前より、地区活性化の取り組みに関わっていただいております、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授の増田委員に、副会長は、市民委員を代表していただき、中井委員にお願いしたいと思いますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(事務局：仲野)

ありがとうございます。

それでは、会長には増田委員、副会長は中井委員ということでよろしく願いいたします。

増田会長、中井副会長のお二人には、恐れ入りますが席の移動をお願いいたします。

また、ここで会場の設営をしたいと思いますので、暫時5分ほど休憩としたいと思います。

長らくお待たせいたしました。

それでは、新しく就任されました正副会長を代表しまして増田会長に就任のご挨拶をお願いしたいと思います。

(増田会長)

それではただいま、会長という大任を預かりました増田でございます。平成26年の3月だったと思いますけど、金剛地区まち再生研究会という学識経験者が集まって、金剛地区まち再生に向けた提言書をつくる際に座長をさせていただいた、というような関係で、この会長という大任を拝命したのかなと思っています。我々の与えられている責務というのは、29年3月、今年度末に、皆さん方の意向を踏まえながら、金剛地区再生指針を策定するというのが本協議会の役割とっておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

先ほどもございましたように、四十数年まち開きから経過し、人口が世帯分離であったりとかで、30%という形で減少している。さらに高齢者率も、2、3日前の新聞にもございましたけども、日本全体で5人に1人を越えたという報道もございましたけれども。本ニュータウンの中には40%を越えてる高い比率の地区もあるということがございます。いろんな意味でまちづくり、いろんなところで手伝っているんですけど、やはり人間の限界性と言いましょか。旧集落、あるいは旧農村というのはある意味、したたかで自己更新をしていくという仕組みを持っているんですね。と

ころが、ニュータウンという計画的につくったまちの限界性というのは、どっかで限界性を持っていて、計画的につくったまちは、やはり計画的に何らかのフォローアップをしていかないと、なかなか自己更新的な仕組みを持っていないというのがニュータウンかと思っております。したがって、皆で知恵を出し合いながらですね、どうやって旧集落の持っているようなしたたかさでとは違った意味での再生と言うんですかね、リバイタリゼーションという、そのあたりについて皆さんと忌憚ない意見交換しながら、ある一定の指針をまとめていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

また、中井さんには副会長としてご支援、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

(事務局：仲野)

ありがとうございました。

それでは、この後の議事進行は、設置要綱第5条第1項により、会長が行うこととなっておりますので、増田会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

(増田会長)

それでは、お手元の次第ですけれども、会長副会長の選出以外に、2番～6番まででございます。まず最初に「これまでの経緯と策定スケジュール（案）について」をご説明いただいた後、3番、4番、5番ですね。「金剛地区再生指針の位置付けと構成（案）」「活かしたい魅力と克服すべき問題点（案）」「目指すべき将来像」について、3、4、5一括に説明いただいたのち、意見交換をして、その後、6番「将来像実現のための取り組み項目と展開イメージ」。これも少し事務局からたたき台を説明いただいた後、意見交換をする。ということで、だいたい議事そのものは11時50分くらいを目途に。あとは事務的な処理が残ろうかと思っておりますけれども進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、「これまでの経緯と策定スケジュール（案）について」をご説明いただきたいと思っております。よろしくお願いします。

(事務局：坂口)

はい、事務局の坂口です。レジメ4の(2)、これまでの経緯と策定スケジュール（案）について説明させていただきます。金剛地区でございますが、昭和40年代に旧日本住宅公団、現UR都市機構が、土地区画整理事業により開発され、その後、良好な住環境を備えたまちとして発展してまいりましたが、開発後、約半世紀が経過し全国各地の他のニュータウンと同様に、人口の減少や少子・高齢化、施設の老朽化等の課題が顕在化しており、あわせて、これらを起因とした様々な問題が起こっています。富田林市は、金剛地区の開発・成長とともに大きく発展してきたといった経緯もあり、まちの衰退は、市全体の衰退につながることも懸念しています。本市では、これらの課題を解決しながら、地区に新たな活力や魅力を創出し、だれもが安全・安心・快適に暮らすことができるまちづくりを進めています。続き

これまでの取り組みとしまして、平成24年より、庁内研究組織「金剛地区活性化研究会」を設置し、担当部署をこえた横断的な議論を進め、地区の現状・課題、活性化の方策等の調査・研究を

進めております。また、6人の学識経験者による「金剛地区まち再生研究会」により、「金剛地区まち再生に向けた提言書」をまとめていただき、更にアドバイス等をいただきながら、地区活性化に向けた市の考え方や市の視点で思い描いたまちの将来像を整理した『「(仮称)金剛地区再生指針」策定に向けた素案』を作成しました。

現在の取り組みとしましては、これまでの成果等を踏まえ、更に住民等の視点を取り入れ、将来のまちの姿等を示す「金剛地区再生指針」の策定をめざし取り組みを進めています。

図にもございますように、指針策定に向けては、協議会での具体的な協議に先がけ、地区住民をはじめとする関係主体の皆さんの意向把握や課題の共有、まちづくりへの参加を促すこと等を重視した取り組みを進めてきました。

指針策定にかかる具体的なフローや体系については、裏面の体系図を基に説明させていただきます。住民等の意向把握、住民参加を促すための方策としまして、昨年度に地区内の17の町会(自治会)等のご協力をいただき、住民へのグループヒアリングを実施させていただきました。またアンケート調査の実施、シンポジウムの開催、あわせて、関係団体や事業者の皆さんへのヒアリング等も行ってきました。

これらの取り組みの中でいただいたご意見やアイデア等については、参考資料1、2にて紹介しております。ここでの詳細な説明は控えさせていただきますが、この後の議論にかかる資料等の中で、随時報告させていただきます。

さて、この、町会・自治会等グループヒアリングの参加者の中から選出された32人の方には、図の中段の意見交換会に参加していただき、引き続き地区活性化にかかる検討をお願いしているところです。更にその代表者5人の皆さんには、市民委員としてこの協議会に参加していただいております。

本協議会は、来年3月の指針策定に向けて協議を進めることとしており、取り組み開始当初よりお世話になっております学識経験者、地区に関係する団体、事業者、大阪府の皆様にもご参加いただき本日の会議を開催させていただいたところです。

続きまして、指針策定までのスケジュールについて、資料4を基に説明させていただきます。大きくは、協議会、意見交換会それぞれ4回程度の会議を相互に開催しながら、市内部での調整も交え、指針策定をめざしてまいりたいと考えております。概ね資料に記載しているとおりの日程での開催を予定しておりますが、具体的な日時は、あらためて調整のうえ決めさせていただきたいと考えております。

続きまして、本協議会に先立ち、開催させていただきました、住民意見交換会の内容について、資料5を基に、報告させていただきます。5月22日曜日に金剛連絡所2階ホールで開催させていただいたところ、26人の皆さんにご参加いただきました。資料下に当日の写真を掲載しております。

3班に分かれてワークショップ形式で実施しました。こちらも詳細の説明は、省略させていただきますが、各グループで①目指す将来像、②重点的に取り組む項目等について、様々なご意見・ご提案をいただきました。これらのご意見等についても、今後の議事の資料に反映しておりますので、後ほど皆様のご議論をお願いしたいと存じます。

以上、「これまでの経緯と策定スケジュール(案)について」の報告とさせていただきます。あ

りがとうございました。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。昨年度の動き、さらに今年度に入って、さらに第1回の意見交換会も進めていただいております、本日協議会の方が第1回目とあと3回の4回で取りまとめるということですが、何かご意見ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ちょっと4回で取りまとめるというのは慌ただしいですが、その間、意見交換会もございますし、庁内での研究会もございますので、そのあたり相互に補完し合いながら、まとめていくという形になるかと思えますけれども。はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

僕、高辺台から出ているんですけども、もう一人高辺台から出よかと言っておられた方おられて、その方は地域の防犯とか、あるいは小学校の見守りですかね。そういうの非常に熱心にやっておられて、地域のことすごくよく考えて、状況もよく知っておられるんです。その方忙しいので、僕に譲るわって形で、私なつたんですけど、リーディングプロジェクトもいろいろ決めていくんですけど、住民の意見交換とかもあるんですけどね、実際にそういうところで、活躍と言いますか。担ってこられた方の意見を聞いていく場は非常に大事じゃないかと思っております。そういうことを反映させていくということも考えていかないと、無視した形になってしまったら元も子もないと思いますので。ということもぜひやっていかなあかんと思っております。

(増田会長)

分かりました。それは意見交換会に参加いただいた32名の中に入っているんですか。

(吉村委員)

その方は入っているんですけど、全員が入っておられるかは僕知らないし。で、そういう方に聞く場とかね。あるいは時期的に4回でできるのかということもありましてね。あまり確定的にやっていくというのは、僕としてはまずくなるんじゃないかという気がしまして、それもぜひ考えていかなあかんかなと思っております。

(増田会長)

はい、分かりました。いかがでしょうか、事務局は。少しフレキシブルに回数なんかを考えていけないといけないのが一点と。それと意見交換会を4回やっていただくんですけども、やはり地元で活躍される方々にもヒアリングみたいなやつは継続した方がいいんじゃないかというご提案やと思うんですけども。その辺いかがでしょうか。

(事務局：坂口)

はい。まず、地元で活躍されている方の声とかいうのは、今までですね、資料の裏面にございますように、町会さん通じて積み上げ式で、最初グループヒアリングでは60人、70人くらいの皆

さんに集まっていたいて、ヒアリングをさせていただきました。シンポジウムでも100人近くの方に来ていただきまして、ある程度様々な方面からの意見を拾いながら、進めているところです。今後ですね、意見交換会をして、協議会をして、その内容についてはまた意見交換会に戻して報告させていただいて、その内容をまた町会・自治会の皆さんにですね、下ろしていくというような方法も考えたいと思っていますし、その中で新たな人材とか、まちづくりに協力していただける方が出てきたら、当然そこに出向いて行って、お話をお伺いしたり、こちらの方の会議に巻き込んでいたりとか、そういったことも考えておりますので、またよろしく願いいたします。

協議会の回数、意見交換会の回数につきましても、一応全体的な会議としてはスケジュール、4回ということで決めさせていただいてるんですが、どうしても不足する部分については、個別のヒアリングや小会議といった形で対応していきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

(増田会長)

少し柔軟に対応していただいているということで。よろしいでしょうか。

(溝口委員)

坂口さんの最後のね4回ということで、話があったんですが。果たして4回でまとめることができるのかどうか。一点だけ確認したいんですが、来年の4月までにこれを策定するという期限を決めたのは、どのような理由で決められたのか。その点だけ確認しておきたい。はっきり言ってこの50年近いこの金剛地区を再生していくための、いろんな議論をもともと去年から来年の4月というスケジュールは出ておりましたけど、その最後の区切りを来年の4月というのは何か市としてひとつの考え方、もともと研究会や論議された中でのひとつの結論なのか。まずお聞きします。

(事務局：坂口)

はい、来年3月目標というのは、27年度当初に2年間。できるだけ長い時間をかけようということで、この事業27年度からスタートしているんですけども。27年、28年にかけて、十分な期間が取れているかなというイメージで設定したんですけども。それ以前に先ほども説明しましたように、24年頃から市内では様々な検討を進めておまして。その中で節目節目で、提言をいただいたり、市素案をつくったりしている中で、50年の中で2年が短いんじゃないかという意見なんですけども、5年ほどかけてやってきているつもりでございます。それで、指針の方はですね、来年の3月には何とか取りまとめはしたいんですけども、当然その後まちづくりしていく中で、見直しとかいうものも当然出てくるかと思っておりますので、もっと長い先を見据えて、柔軟に考えていきたいと思っております。

(増田会長)

よろしいでしょうか。一定の区切りとして、今年度末に指針をまとめていただく。その後の具体的なアクションについては柔軟に対応していくということで。それではこの議題に関してはよろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

それでは、続きまして3番「金剛地区再生指針の位置付けと構成（案）について」、「活かしたい魅力と克服すべき問題点（案）について」、それと5番「目指す将来像について」、少したき台のご説明をいただければと思います。

（市浦H&P：小倉）

それでは資料6から説明させていただきたいと思います。資料6です、まず再生指針の位置付け（案）と書いて、主に二点かいてあります。ひとつはですね、この指針は金剛地区に関係するあらゆる人が一丸となって、金剛地区の再生・活性化に取り組むために、みんなで共有するビジョンということが一点目。

2点目はですね、金剛地区の再生はいつまでやるのかということですが、建設当初の都市基盤・建築物など、そういったコンクリートの構造物等が、例えば建ってから70年たった、2040年頃にはですね、更新の時期を迎えるだろうと。で、そこを見据えてやっていくんですけども、あまりにも長い話になりますので、この指針ではですね、金剛地区の目指す将来像は、これから10年後、2026年頃を見据えて描くと。ただ、10年というのも長い話ですので、短期、中期、長期と到達目標を定めたりですとか、あるいはリーディングプロジェクトも定めていきたいと思えます。

再生指針こういった形にまとめるかはこれからご議論いただきたいと思うんですけど、シンプルに考えますと、その下にありますようにまずは再生指針の位置付けと、それと1番目に金剛地区の魅力と克服すべき課題、2点目に金剛地区の目指す将来像、3点目に将来像実現のためにどういったことに取り組んでいくか。そして、4点目に実現のための方策といった構成ではどうかと考えております。

続きまして、資料7です、これは今も説明いたしました再生指針の中で言いますと、1番目の金剛地区の魅力と克服すべき課題についてです。昨年からご意見いただいたりとか、あるいは調べたりしたことを元に、活かしたい魅力3点と克服すべき課題5点で整理しております。中身はざっとだけ説明させていただきますが、開いていただきますと2ページですね。金剛地区の活かしたい魅力の1番目。これは金剛駅、難波まで22分とその下にですね図がかいてありますけども、例えばですね、奈良市の非常に人気のあります学園前とか千里中央ところからの都心への距離と金剛の時間、距離を見ると。遜色ない、または勝っているのが分かります。それと乗降員数ですね、右の上のところに小さい表がございますけども、周辺駅と比べましても36,000という乗降人員というのは非常に大きいことだと分かります。

3ページですけど、2点目にゆとりある戸建住宅地、整った道路・公園、周辺の自然や歴史資源ということで書いています。都市基盤ということで言いますと、そこに書いてある図のとおり、道路の幅員別の現況図ですけども6m以上の道路がこれだけ基盤の目のように整っているということです。

4ページの方、これは住宅の種別の現況を色塗りをしているものです。

5ページですけど、公園や緑地が非常に多いということで、その図で一目瞭然に分かっていただけるかと思えます。

6ページの方に少し、金剛中央公園とかですね。それから寺池公園の様子などを載せております。

7ページ、地区周辺には多様な自然や歴史の資源が多いということで、富田林市域でそこであげてますような自然とかあるいは農業とか、あるいは歴史資源ですね、そういったものがあるということ。こういったことも地区のひとつの魅力かと思います。

8ページに行きまして、魅力の3点目として、個々の町会や自治会あるいはNPO団体さんなどが活発に活動されているということがあげられます。町会・自治会の図がありますし、右の方ですね、この9ページの図はですね、金剛地区で活動されている団体さんはどのようなのがいいのか、表にしてみました。かなり網羅されているということが分かるかと思います。

次に10ページからは克服すべき課題の方です。一点目は、若年者が流出し高齢化が進行しているということで、年齢別人口の平成12年、17年、22年の5年刻みのグラフになっておりますけども、右手の方見ていただきますと、50代以上のところはですね、グラフの形がそのまま横にスライドしていつているということが分かります。ところが左手の方見ますと、例えば25～29歳のところ、平成12年の△印にいた人口がその5年後10年後とどんどん減っていつているということが分かります。若年層、それとそのお子さんの世代が出て行っているということです。その下に高齢化率の推移。地区全体で35%というところまで昇っているのが分かります。

ちょっと飛ばしていきまして12ページの2点目。金剛は住宅地ということで売りなわけですけど、ただ新しい人が入ってくるための住宅のタイプの選択肢が決して多くはないんじゃないか、ということです。UR賃貸住宅は5,000戸、戸建住宅は2,400戸で、その他のタイプはあまり多くないということと。それと13ページの方に少し書いていますけども、流通物件をインターネットサイトで閲覧してもあまり出てこないというようなこともございます。これはヒアリング等でも中古でもかなり高い値段になってしまいますので、なかなか若い人が入ってこれないんじゃないかというようなご意見もいただいております。

次の14ページ3点目にですね、先ほど活動されている自治会とかNPOさんが非常に多いということなんですけども、まず活動するスペースが住宅にあるわけじゃないということで、地区で活動することができるスペース、あるいは関連する施設等をプロットしておりますけど、アンケート、ヒアリング等では、かなりこの意見が多かった。自治会で自由に使えるようなところがないというご意見がございました。

それと15ページのところでですね、アンケート結果ですけれども、地域の活動に参加されている方は高齢の方が多いいんですけども20代や30代の方はあまり多くない。ただ、15ページの下の方グラフを見ていただきますと関わっていないが関わってみたいという方がけっこう多いということが分かります。ですから予備軍はいるんだけど、というような状況かと思います。

それとですね、図等はございませんけども、自治会はそれぞれあるんですけども、連合自治会がないということがひとつ特徴としてあります。ですから地区全体で何かをやるというようなことがあると、今はそのための組織がないということが一点課題としてあります。

次の16ページです。商業機能の低下ということで今ある商業施設等を書いておりますけども、やはりアンケートやヒアリングとかの意見で、特に戸建住宅地の中に何もなくて、坂道が多いので買い物に行くのに困っているお年寄りが多いとか、そういった意見が多く出されております。

17ページでそれも関連しておりますけど、地形の高低差による制約が大きいということで。この図は茶色でラインを引いているのが等高線です。こういった形で地区全体が非常に起伏が激しく

てその中でも高辺台三丁目の西側のところに南北に谷筋が横断しているというようなところ等が
ございます。

次の18ページは、バスの路線が走っているんですけど、なかなかバス停の位置がうまくいって
いないとか、そういったようなご意見もいただいております。

以上、駆け足になりましたけども、この活かしたい魅力と克服すべき課題、昨年からいただいた
ご意見等を基に作成しております。

もうひとつ、資料8が次でございます。A3の見開きになっています。こういった課題等を踏ま
えまして、金剛地区の目指す将来像をどうしたらいいか、ご議論いただきたいわけなんですけども。
この左側にありますのが平成25年度のまち再生研究会、平成26年度の市内部での素案に踏襲さ
れてます再生の理念でございます。これが住民が参画し改善し続ける住民主体のまちづくり、2点
目に多様な人々が暮らしやすく住み続けられるまちづくり、3点目に周辺地域と融合した多機能型
のまちづくり、4点目に富田林市の風土を活かした知的・文化的なまちづくりという4点があげら
れております。一方、昨年までの住民ヒアリング、アンケート調査、あるいは意見交換会の1回目
の意見等を基にして、まちの将来像についての意見を事務局で4つほどにまとめてみますと、右側
のようになります。1点目が住民が生き生きと安心して暮らせるといったようなキーワードが非常
に多い意見でございました。2点目が、若い人に入ってきてほしい。若年世代等の新たな住民が住
みたくなるまちということ。3点目がやはり緑豊かでゆとりある住環境を受け継いでいくというこ
と。4点目が時代のニーズに合った個性的な魅力をつくり、それを育てていくということ。という
ような意見がございました。その間を結ぶのは、線に関連するであろうと思われるところを結んでい
ますけども、これらを基にして目指す将来像を、今日は第1回ですけども、第2回、第3回と進め
て、ご議論いただきたいなと考えております。説明は以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。ここで一旦きって、3番が資料6ですね。再生指針の位置付け。
構成については何回かまた議論できるかと思っておりますけども。それと活かしたい魅力と克服すべき問
題点。それと目指す将来像。この将来像については、最後まで議論は続くんだろうと思っておりますけど
も、今日いただける意見を極力たくさんいただいて、今度に向けて、活かしていきたいと思いたす
けどもいかがでしょうか。はい、友田委員どうぞ。

(友田委員)

金剛ニュータウンの再生にあたって今までもいろいろ検討いただいてきて、大きいポイントは二
つあるかなと思っております。ひとつは金剛のニュータウン再生ということなんです。ニュー
タウン再生とは何かっていうと、まずニュータウンは何かということで、やはりニュータウンとい
うのはその時代に、金剛ニュータウンでしたら高度成長期の人口が増えた時にどういうふうなまち
をつくっていくんだというその地域の時代の課題を解決してきたのがニュータウンなんですよね。
そしてその中で生活像とか、社会像とか、空間像とか、そういったものを示してきたと。ニュー
タウン再生においてもその役割は一緒だと思っております。すると今金剛ニュータウン周辺で人
口が減少し、高齢化が進み、消滅可能性都市というような話もされている中で、そういった課題に

きっちりと向き合っ、地方の郊外のニュータウンがどのようにあるべきか、みたいなこともここでひとつ答えを出して示していくってことも重要なことだと、それがひとつ一点と。それともう一点がここまできれいに進めていただいて、住民の意見これだけ聞いていただいてきて、そしてまとめていただいて、この資料7ですかね、克服すべき課題というものも出してきていただいているんでね。まとめ方とか進め方みたいなのは、やはりこういった課題をいかに克服すべきかっていう視点。そして、地域の住民に説得するにしても、こういった課題が出てきていますのでその課題をどうやったら解決できるのか。資料7で言いますと、例えば、若者の流出、高齢化が進んでいるということで、では若者が出ていかなければならない。それでは金剛ニュータウンの魅力をどうやって高める、若者を引き付けるにはどうやったらいいのだったということがスタートで、それに対しては教育を充実するとか駅前というものをもうちょっときっちりしなければいけないとか。あと住宅ってどうするんですか、敷地はどうするんですかとか。文化、コミュニティはどうするんですかとか。というような課題にきっちりと答えていって、それに対していろんな答えをつくりながら、まちづくりのビジョンみたいなのができ上がってくるという、課題からもう少しスタートするようなアプローチの仕方をこれから住民参加というようなまちづくりの中では、していかなければならないのかなと思って。きれいにまとめていただいているんで、このビジョンについてはこのような課題をね、きちんと解決していく、きっちりと向き合っ我々が答えを出していくというような取り組みをしたいなと思っているし、我々住民としてもそういった取り組みに取り組みたいし。そういったことをしようとするところにご参加の皆様と連携、パートナーシップを組まなければならない。そういったところで方針をつくって共有し、まちづくりをしていくという形ができることが理想かなと思っているんで、そんなまとめ方もひとつあるのかなと思っています。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

個人的な感想から言っいいですか。僕は狭山に住んでおまして、20数年前にこちらに移ったんですけども、その移るきっかけがやはりこの環境がいい、非常に暮らしやすいところだなという感じがあったんで、移ってきたわけです。それは実際に住んでみてそのとおりでなと思っていますし、それはただそこにあるだけじゃなくて、いろんな方が守ってきてるなと思ったんです。さっき地域の見守り隊やっていた方か、今話しましたが、年齢的には当時若かったのかと思いますけど、その方々がいろいろ地域を大事にしようということでやってこられたと。それは僕は地域の歴史として必ず認識しとかないかんと違うかな。その50年たっこの環境であるということは、それだけ気に入ったものが守られてきたということかと思うんです。そういう点で50年たったら、街並みとか家というのはひとつの有形文化財とかになるとか聞いたことがあるんで、ひとつの伝統が残っている場所やと考えるといいと思うんですよね。この中の活かしたい魅力として書かれていた1番の22分と利便性が高いという問題と、2番のゆとりある戸建住宅、整っている歴史資源がいいと。これはセットで考えるべき問題じゃないかと思っています。それで22分で来れるこれだけ環境のいいところは僕的にはあんまり他では見られないんじゃないかと

思っています。このまちを活かしていくということは、僕は最初に言った感想のとおり、今ある街並み、50年たって歴史的と言っていいと思うんですけど、この街並みを残しながら、この利便性を訴えられると。それがこの地域の最大の特徴だと僕は思っているんです。泉北にも環境のいいところはいっぱいあるんですけども、残念ながら中心の駅から非常に遠いというところが多くありますね。そういう点では金剛というのは特殊といいますか、よく残されたんだなと思っています。これは住民の方だけじゃなくて、おそらく富田林の市の方も非常に努力されたんじゃないかと思っています。富田林全体で僕は非常にいいまちだなと思っています。富田林の歴史の財産とか環境を大事にするということですね、いろいろ取り組んでこられたんじゃないかとすごく思っています。ひとつの例で言えば、寺内町、金剛地区とはちょっと違うんですけども、寺内町残されているというのは、非常に努力だったんじゃないかなと思っています。伝統的建築物かな、伝建とか言うやつですね。あれ大阪でひとつしかないということ知りましてね。寺内町だけだと。そういうこと考えても富田林市もそういうこと非常によくやられて、市として非常に誇るべきことじゃないかと思っています。その中の金剛地区ということで、ぜひこの地区の売りとしては、こんだけ環境が整って、駅に近い。これを大事にしながらさあ今ある課題を変えていこうという考え方が非常に大事じゃないかと考えています。そういう点で、地域の方の意見を聞いていただきたいというのも、そういう気持ちから言っているんですけども、そういうことが僕は全体の認識としているんじゃないかなと。というのはこの前5月22日かな。意見交流会出たときに個性のないまちだということが出て、ちょっと僕びっくりしたんですけども。こんだけいいところが何で個性がないのかなということがありましたのでね。ここは大きな個性だという考え方でやってほしいというのは僕の意見です。他にもいろいろ思っていることはあるんですが、今まとめきれないんで、それだけ発言したいと思うんですけども。

(増田会長)

はい、他いかがでしょうか。今のお二人の意見とか聞いてて、今の話の金剛は難波まで22分と利便性が高いというのは、これは単純に電車の時間ですよ。私有地からの時間、歩いて駅に寄りつけるのか、あるいはバスを経由しないと駅に寄りつけないのかによって、大きくこの22分という考え方が違ってくると思うんですよ。その辺はひとつ見るという話と。昔のニュータウンみたいに都心部に就業地があって、通勤者が住むということからいうと、この22分というのは非常にメリットになるわけですけども。それはライフスタイルが変わってきたというところで、この22分はいったいどう見るんやと。乗降客数もかなり減ってるというのは、リタイヤ層が増えて、都心部に毎日働きにいかなくてもいいと。そういう中での都心とのつながりの強さみたいな話は、新たな若年層の居住という意味から見たらいいんでしょうけど。今住まわれている方々にとって、これはどういうふうに思われているのか、その辺のあたりはちょっと見とかないといけないのかなという。昔の限界性というのはベッドタウンをつくって、やはり都心に就業地があって、それでいくということになると近くというのは非常に大きなメリットであったと。そのあたりのところが少し社会構造が変わってきているのでどういう見方をしたらいいのか。あと、もう一個気になっているのが、私の専門は緑地計画で公園や緑とかが専門なんですけど、都市計画とともに。公園や緑が多く自然豊かな住宅地があってがこれメリットやと言うんですよ。このニュータウンも言うんですよ。

本当にそうかと。この5ページ目のところに書いてるように、見る環境と言うんですかね、本当に公園緑地が若い居住者にとって住んでみようという魅力として顕在化しているのかどうか。ポテンシャルとしての美しさとか気持ち良さっていうのはあるんやけど、いやーあそこようさん公園あって、緑も豊かで、歩道も整っているから、毎日歩ける環境がいいので住んでみようとか。ここで子どもを育てて子どもをのびのび遊ばせられるから住んでみようとかです。ちょっとあるだけの状態なんで、それに何を加えたら、本当の魅力に転換するのかと。そんなんもちょっと考えないといけないのかなと。例えばの例ですけども、私はたまたま泉北ニュータウンに住んでいるんですけども。泉北ニュータウンの南区の区民まちづくりのひとつのテーマが、公園緑道を生かした歩くということをテーマに一度皆で考えてみようかと。歩く環境なり健康づくりのためのという環境から見たら非常に整っていると。ただしあんまり皆さん歩いてないと。いいものはあるんやけど、ほんまに皆さん使いこなしているかというあたりがあって、逆に使いこなしてないやつをちゃんと考えていったら単純にいいことは書いてあるでしょ。まちづくりの協議会がたくさんあっていろんな活動されているというのは、これはまさにもう顕在化している姿ですよ。ところが公園があるとか、駅から22分と近いのはどちらかというとポテンシャルで、それはほんまに魅力につながって顕在化しているかというのと、顕在化してないと。だからここのところもポテンシャルとしていい部分とそれは魅力としての顕在化してるといふ部分と両方あるんかなと。その辺ちょっと見といたほうが面白いかなと。ある意味坂道が多いというも、ある意味いろんなところで長寿を標ぼうしている町村で、公園の中にわざわざ昇降丘、小山をつくって1日何回か上り下りしましょうとそれによって健康維持をすることを警鐘されている村とか町とかもあるんですね。だから部分、坂があるというのはデメリット、利用しにくいという側面と、もう1個の方はうまくそれを使いこなしたら、健康寿命としての歩くという非常に楽しい魅力になると。なんかそんなあたりの見方ができたら面白いかなと。私自身の感想、今のを聞いて。はい、どうぞ。

(溝口委員)

金剛地区のめざす将来というのは、ばっとしてね。そう簡単に出てこないんですが。今の皆さんの発言を聞きながら、5、60年たった金剛地区、その中にはUR賃貸住宅とそれからその周辺のマンション、多くは戸建て。そういう構成の中でどのようにそれぞれの居住者、生活者がどのようなプランを将来像を持ってやっていくかっていう、その融合性というのは非常に難しいところがあるんじゃないかと。財産権も含めて考えていきますと、やはりそのあたりは賃貸と戸建てのシェアと、そのあたりイコールどのように融合させていくかということがひとつ大きな問題。というのは議題に出た22分、先ほども会長がおっしゃったように、22分、周辺のところからいったら22分というのは実際には15分プラスとか、あるいは20分プラスとかそういうことがあるわけですが。私はたいしてその22分ということにはこだわらないと。金剛地区のこの環境というものが今は先ほどよりいろいろ出ました非常に環境のいいところ。しかも坂道、確かにおっしゃたとおり坂道が多い。多いのが不満というのがこの前の意見交換会で出ましたけども、わざわざ坂道をつくるということを考えれば、自然の坂道があるという金剛地区の形態の素晴らしさっていうのは、やっぱり私たちは認識する必要があるんじゃないかなと。その下に続いて、このニュータウン再生っていう言葉は私はあんまり好きではないんですが。金剛地区を金剛ニュータウンと私は認識したこと一度

もないんです。やはり泉北と同じようにその当時開発されたところであって、その人たち、ある意味では非常に大きな段階に来ているんだ。当時20代30代で入居した、あるいは戸建てに入居した人たちも60、70という人口配置になって、金剛団地の賃貸も60%が65歳以上というような高齢化が進んできている。その人たち、どうやってこれからも住み続けることができるのか。そこにはやはり、高齢化率と同時に、若年層の対策というものが重要になってくるんじゃないかな。それから私たちはひとつ将来像として考えてるのは、金剛地区を文化交流のまちというような位置付けで。例えばURが今いろんな施策で若者を入居させる、あるいは若いママさんを入居させる。そういう施策を取っておりますけども、金剛団地自治会としては、ひとつは金剛地区にせっきやく近場に大谷大学があるわけですから、大谷大学と連携し、これはもちろん市とも協力する必要があるかと思うんですが。そういう人たちの学生寮としてね、空き家というのはURの金剛団地には500～600あると。その有効価値を問うという意味では、その大谷大学の学生さん、若い人たちがわざわざ家から通うんじゃなくて、この近くで寮的な生活。特にその学生たちが、地域のお年寄り等に教育カリキュラムとしていろんなケアに参加すると。で、そういう場所を提供するのも、またURとしても場所提供というのは当然出てくるわけですし、私たちはそれはURと相談しながら、そういう場所を確保していけば、金剛地区全体に若者があふれる状況がでてくるんじゃないかな。そういうこともある意味夢みたいな話ですが、夢を見ながら、金剛団地全体をお年寄りと同時に若者が生き生きできる豊かな文化性のあるまちづくり。こういうのを私たちは考えて、これからいろんな場所でそういう提案していきたいと考えております。そういう意味ではURも今日おいでですが、コーディネーター的な役割を持っていただけたらいいかなと。この地域の医療、福祉、介護、こういう問題に対してのURとしてできる、アドバイスのできる、そういうコーディネーター的な役割を行政が与えると。そうすればまたURとしても独自の取り組みもできるかなと、まあ勝手に私が勝手に、いま藤本さんがお見えですけど、考えている次第です。そういうのも含めて今後いろんな局面で意見を出していきたいなと思っております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。特に、今の話で言うとひょっとしたら今日の資料8のあたりの、若い世代の新たな住民が住みたくなるまちという、こういう屁理屈も大事やけど、もともと住まわれてる方々と新たに入ってこられる方々との融合やとか、若者と要するに高齢者の融合やとか、あるいはちょっと違う機能として大学みたいな機能との連携による魅力付け、なんかそういうあたりはどうやって表現していったらいいのかとか、あるいは前に出たストック活用ですよね。時代のニーズに合った個性的な魅力という話もありますけども、50年蓄積してきた後の地域の持つ魅力みたいなあたりをどこに書き込んでいたらいいんやろとかですね。その辺の話ですよね。あるいは、緑の豊かさみたいな話や地形の起伏というのはある意味魅力でもある一方、既存の制限要素にもなっているとかですね。そのあたりどう書き込んだらいいんやろとかですね。何個か見直しのステージというんですか。

(溝口委員)

細かい意見で寄せてましたのは、この開発してから50年で、ここに至るまでで直近で心配して

るのは寺池公園、寺池の周辺の桜なんです。あれはもう50年近く経つ、中には枯れて、倒れそうなやつもあるし、もう処分した木もある。せっかくあれだけの桜が育っているにも関わらず、それをこの指針の中で触れずにそのままいいのか。やはり植栽の方も見直す必要があるんだということも位置付ける必要があるんじゃないかなというのはひとつ今大事だと思います。

(増田会長)

それについてはいろんな意味で先ほどもありましたように、公共空間が充実しているというのと同時に、それをどう守っていくのかと。少しコンクリート橋にしろ、更新の話と同時に植栽も、例えば今のソメイヨシノというのは、クローンなんですよ、全部。だから50年から60年が寿命と言われてて、更新しとかなないと一気に老朽化して花も咲かなくなるという。まあむしろいろんなところでソメイヨシノばかり植えずぎて、一気に劣化するので、むしろ山桜みたいなやつですと、200年300年の樹齢があるもんですから、どう混合しながら自主転換していくのかとか。特にあの今やはり近辺で緑で問題になっているのは、アカマツにしろコナラとかクヌギとか、ああいう檜関係も、昔やったら2、30年に一回更新してたんですね。で、それを更新しないとやはり松枯れが発生したり、檜枯れが発生して、やっぱりどっかで更新しとかなあかんのですよね。やからその辺の課題もあるという。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

(友田委員)

寺池の公園の話や緑の話もよく出てきたんですけどね、やっぱり我々、意見交換を住民とする中でやっぱり今寺池の問題というのはかなり出てきてます。やはりね当時ニュータウンつくった時にはね、緑を確保するくらいのものであそこの使い方とか、どういうふうに市民が使うのかとかですね、その辺の思想は多分なかったんだと思うんですよ。全然入れないですし、やっぱり周辺は危険ですしね、ああいうものをこれからやっぱりね時代に応じて、まあ高齢者も増えてきてるし、その中でどういう使い方をするんだというような、もういっぺん見直すみたいなことが必要だということですね。やっぱりそのつくり方っていうのも問題だと思うんですよ。大阪近く狭山では狭山池つくっていますけど、あれはものすごく安全でどっからでも見えるし、皆さんが安心して歩けるような形になってて、その使い方についてもね、池祭り実行委員会が池祭りを市民と一緒にやりますとか、市民が参加しながらあの辺の空間というものをきっちりつくっていると。と言うような形で、やはり今度寺池という公園を考えるときには、そういった安全とか市民が使うとか、もっと遊歩道入れてランニングができるとか、その辺使い方をきっちりつかんで、それを小学生と一緒につくるとか、中学生と一緒につくるとか、若者を参加させてコミュニティを活性化させるためにも使っていきますよとか。それを地域のシンボリックなものしていきますよとか。全体のストーリー性を持ちながら、ああいったところをひとつのプロジェクトにしてやっていくとかね。それと共にまず桜の問題も解決するとかきっちりそういった課題に向き合って、それを解決していくにはいろんな答えがあると思うんですよ。だから課題をひとつずつあげて、そして東ねて、そして答えを見つけていくという取り組みをやっていって、そこに市民も参加させ、いろんな活動団体もありますから、みんな得意とする分野はいくらでも持っていますんで、それは今度はネットワークで結んで強くしていくと。そんな取り組みを全体構想の中でできたらなと思っております。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(中井副会長)

副会長の立場で、あまりいろいろな発言は控えてたんですけども、金剛地区ニュータウン、私は40年近く住んでますけれども、もともとは先ほど友田委員が言われたようにベットタウンとして開かれた。そういう意味では、当初入った時は若者がおって、子どももおって、人口が急増して行って、学校分けなあかんという状況があったんですね。それに対して、今は高齢化していく中で若者が出て行ったと。さきほど、委員長のおっしゃられたように住み方っていうのはたぶん変わってきたんだろうと。もともとは勤めて帰ってきて寝るだけというところから、ここに高齢者が住んでいくということになるとね、どう使っていくって、職場をつくるかどうかは別にしましてね、老人から若い人たちが一緒にここで活動できるというまちに変えていかなあかんだろうと思います。そのためには話があった、若者、特に金剛の駅前には3つか4つかの大学のスクールバスが来ますので、スクールバス今は駅にポンと降りて行って帰ってしまうだけですから、それをショッピングモールのところに寄せるとか、そういう方策で、彼らを巻き込んで一緒に子どもも見てもらいながら老人も暮らす。三世代で交流できるような方法考えるなりしたらいいと思うんです。で、先生の話にあった公園につきましては、本当に使われない公園なんですね。私も昔公園をやってたんですけども使われない公園は全然意味がないので、あるだけで意味のある緑地というものもありますけれども基本的に公園というものは人が来て使って意味があるわけです。そういう意味ではどんな形で使おうかというのは、先ほど友田委員が言ったような課題を出していったうえで皆で考えていく、そんなことをしていったらいいんじゃないかと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

これあれですか、大谷大学なんか、この金剛地区の中で読み聞かせ会してくれているとか、そんな連携であるんですか、あんまりないですか。

(原山委員)

あります。各ボランティアで。

(増田会長)

やっぱり芽はあると思いますので、それをどのように育てていくか。

(原山委員)

そのような件で、今度6日の日ですが民生委員と大谷大とで研修会を行うということで、大谷の若い層の方が民生委員制度というものをあまり理解されていない。だからぜひ勉強してもらおうと。また、こちらも若い子らの考え方も取り入れていこうということで、6日の日に講師としてあそこで講演会させてもらいます。どんどんいろんな角度からの大谷大とは交流持っています。

(増田会長)

それどう育てていくかとか、もっと見えるようにどうしていくかという感じですね。

(原山委員)

大谷女子大もそうですが、金剛高校、富田林高校、河南高校ともね、共同募金等なりね、一緒に交流持って意見交換行っております。

(吉村委員)

一部の者ばかりしゃべってすみませんが、若者を寄せるということで、僕URの方じゃないんで、高辺台の戸建ての方なんで、空き家が増えているということで方向として今それを敷地分けて小さいのを建てるということになっていっています。ある意味それは必要なことかなと思っているんですけども。印象的だったのはこの前5月22日の話になりますが、若い方が来られて東京からこっちに住んでたけど一旦東京行ってまたこっち帰ってきたという方おられて、いろいろ家探した時に、金剛のやっぱり環境的に非常にこんないい所あったんやということでびっくりして住んだと。今非常に満足されているという話がありました。まあその方はどこの一戸建てに、一戸建てだそうですけど住んでおられるか、よく知らないですけども、寺池って言ってたかな。やっぱりそういうことも一戸建てを、今ある大きなのを分けていくということもある面では出てくる問題かなと思っています。良いか悪いかは僕よく分からないですけども。そういう問題出てくると思います。その中で言うておられたのは非常にいい環境だったといのを強調されておられたんで、もしそういう方向で進むとしても、街並みのバランス、景観のバランスですね、なんかいろいろ規制とか建ぺい率ないし、敷地何とかとかあるという話聞いたんですけども、そういうこともバランスして考えながら今の環境、景観守っていきながらそういうことを考えていくという方向は大事じゃないかな。

後、出てたのが一戸建ての所を、公共的な寄り合えるような施設つくって、老人が寄り合えるような所とか、それからふらっとの方来られてますね。そういうものに使っていくとか、公共的なものをつくっていくという方法も含めて考えていくということが、若い人たちに来てもらうという点で大事なかなと思っています。公園ということで、さっき言ったように、子どもら来た時に、僕は藤沢台の公園へよく行ったんですけども、小さい子どもとかがおれば公園にちょっと行くというのはよくあることで、ちょっと金剛地区じゃないんですけど津々山台公園ですかね。あっちなんかは子どもも多く、割と広い公園でよくボール遊びとかやっています。そういうふうな住む人の状況が変わってきたら、今使われてないと言われている公園がもっと生きるんじゃないかな、整備も含めてやらないといけないと思うんですけども、そうところがいろいろ考えられると思うんです。今公園が使われてない中で、高齢者の方で一番困っているのはトイレだというのは、これは行ってもすぐトイレに帰らないといけないから行かないという話をされておられたんですけども、そうこともいろいろ考えていけると思うんで、やっぱりここはこの景観を、まず売りといいますか、必要として考えていくと。何回も言いますが、富田林市は本当によく大事にやってきてくれているんだなと思いますので、そこらへんは継承していくといいですか、そういう考えは大事じゃないかなとすごく思っています。

(増田会長)

一度この辺で切って、次の課題に入れて、また戻ってもいいと思いますので、ちょっと次に6番目に進ませていただきますよね。

前回も出てましたが、何回か何人かのご指摘もありますように、ある課題を明確化して一度それを具体的にどう解決策を出していくのかと、それをもう一度再統合することによって理論的にまとめ上げていくというようなやり方もできるんでないかという指摘もいただいておりますので、将来像実現のための取り組み項目と展開イメージ、そのあたり大分関連するかと思いますので報告いただければと思います。

(市浦H&P：小倉)

そうしましたら資料9についてご説明いたします。今ご説明いただきましたように、これはあくまでもイメージでして、まだその将来像も確定していない中ですが、少し先走りになりますのでご説明いたします。

この表の中の左側のところにまちの将来に向けてですね、取り組み項目で8つ項目あげてます。表の中ではですね、短期的に実現できそうなことというのをその次に書いていて、一番右の方はですね、少し時間がかかりそうなので中長期を見据えて、というようなことで2つに分けて書いております。まず1番目、取り組み例1として高齢者等の暮らしを多様な方法で支えるということで、これにつきましては、短期の方ではですね、高齢者の生活支援活動、これはまあ既に一部行われておりますが、こういったことですか、あるいはURさんがこれから医療福祉拠点化のプロジェクトということで取り組まれるということで、そういったことですか、あるいはバス路線の課題とか結構出ておりましたのでそういうのを改善するというのはこれ短期的だということで書いております。右の方に中長期ということになりますと、そういった個々の取り組みが合わさって医療福祉が充実して、高齢者が安心して住み続けられる住宅地というような形にしていくということとかですね。あるいは、技術革新というのはこれからどんどん進んでいくということで、きめ細かな移動サービス、単純なバスだけじゃないよという形というものも、未来というのではあるんじゃないかということで書いております。

次の取り組み例2まちの安全を守る取り組み、これかなり意見出ておりました。短期で言いますと地域の防災とか防犯活動の拠点ということで、自主防災会設立されているところ、あるいは、そういった組織がないところ、地域にはあるというふうに聞いております。そういった取り組みですとか、あるいは道路とか公園ですね、改修で死角をなくすとかバリアフリー化するとかそういったことというのは短期的に取り組めるかと思います。そこから中期っていうところまでもいかないんで真ん中あたりに書いておりますけれども、そういった個々の防災防犯の取り組みをですね、地区全体でひとまとめにしていくということも考えられようかということでこのあたりに書いております。

次の取り組み例3、これは子育て、子どもが育つ環境づくりということでですね、例えば子育て支援サービス、これ今日はふらっとスペースの岡本さんも来られてますけれども、地域で既にいろいろ取り組まれている方もおられます。そういったものの充実ですとか、あるいは地域の子どもの遊びとか学びのイベント的なものの充実とかというようなこと、これは短期で取り組めると思われ

ます。将来を見据えますとですね、例えば先ほどご意見がありましたけれども付加価値の高い子育て環境のまちの実現とかということで、ここの教育環境というのが地域の魅力としてですね、新しくここに住む人も増えるような環境をつくっていくというようなことが考えられます。

取り組み例4として、まちの多機能化に取り組むということで、やはり住宅が中心のまちですので、先ほどもご意見ありましたように少しサービスとか施設とか充実していくということで、これにつきましては、短期の項目のところにはですね、コミュニティビジネス等の促進ということを書いております。例えば今の集会所等を使ってでもですね、活動とかこういうところの充実はしていくということで、利便性を高めるというようなことはできようかと思えます。右の方の中長期の方はですね、例えば大規模な土地での建物の更新とかですね、あるいは、空き施設の活用とか、そういったときにですね、生活サービス機能を導入していくというようなことですか、あるいはですね、用途地域などの法規制の在り方についてもですね、今住宅以外がなかなか建ちにくいような、特に戸建ての部分というのはなっておりますので、こういった議論というものもひとつの例としてあげられるかなということで、そこに写真ありますように、住宅と生活サービス機能が複合して賑わいのあるまちにしていくというようなことも書いております。

次のページをめくっていただきまして、取り組み例の5ということで、空き家とか空き施設の活用、老朽化した住宅とか施設の更新というようなことです。例えば既に地域ではですね、空き家を自治会の人に管理していただいて集会所として使われている事例がございます。そういったようなことっていうのを空き家の所有者の方がですね考えられたらそれに対応していけるような相談窓口とか、あるいは所有者と利用希望者のマッチングとかですね、そういったようなことができること、あるいはそういった改修モデルを提示したりとかということで空き家の活用を促進するといったようなことについては短期にすぐにもやっていけること、ということで書いております。少し真ん中あたりに書いています、地域の空き施設ということでピュア金剛の跡とかですね、こういった空き施設の活用についてはかなり意見が出ていたところではございます。中長期ということで言いますと、老朽化した集合住宅とか施設とかの建て替えとかですね、そういったようなことで更新していくというようなこと、あるいはリノベーションしていくというようなこと視野に入れてはどうかということで書いております。

取り組み例6のところパブリックスペースの魅力をつくるということで、先ほどから議論になっていたところですがけれども、道路・公園の美化とか緑化とか部分改修とかいう魅力をつくっていく、それと先ほどありました実際使われないと意味がないということで、使うためのプログラムとかそういったようなこと、それが発展しますとパークマネジメントと書いていますけれども、地域で公園自体を管理運営していくといったこととか、あるいはそういったマネジメントと呼応して公園とか緑地をさらに魅力化していくといったようなことが考えられようかということで書いております。

次に取り組み例の7で、ヒトとコトをつなげと書いてます。ヒトっていうのは活動する住民の皆さんとか事業者の方です。コトっていうのは地域の活動とかそういったものをつなげていこう、皆さんそれぞれ個々にやっていることがつながって地域一丸として取り組む仕組みをつくろうということです。ひとつは、短期の方に書いておりますのはこういった再生事業を推進する体制が必要なんじゃないかということで、先ほど自治会の連合会も無いということですので、仮称ですけど

もこういった協議会みたいなものをつくったらどうかということ、あるいは地域の活動団体とかこれから活動しようという人が情報を得れたりとかってというような、そういうよくプラットフォームという言い方しますが、そういう場をつくるというようなことも重要ではないかということを書いております。右の方にいきますとエリアマネジメントという言葉書いておりますけれども、先ほどの公園だけではなくですね、地域の様々な運営をですね地域でできるように、例えば自分たちで収益事業を行ったりとかってというようなことをしてですね、組織を賄えたりとかいうようなことも考えられるということを書いております。

最後にですね取り組み例8ということで、先ほど目標のところでありました周辺地域との融合とかですね、知的文化的なまちをめざしたいというようなことで、そういった地域のブランディングというようなことに取り組むということで、短期的には例えば周辺地域との交流活動とか、このあたり意見交換会でもアイデアいただいておりましたけれども、あるいは金剛地区の魅力の発信とかってというようなことあります。右の方はですね、ここであげたいいろいろなことのトータルですけども、新しい金剛ブランド確立して、それを発信してPRしていくというようなこととかですね、あるいはこれも意見交換会で意見がございましたのは、富田林市とか南大阪地域全体を見た中での新しい役割とかですね位置付けを確立していくというようなことも考えられると思います。

以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。とりあえず今日はこの具体策と取り組むべき事項という、このあたりは皆さんかなり日ごろからいろんな思いをお持ちでしょうから、アイデアフラッシュ的にどんどんご意見をいただければなというふうに思いますけれども。いかがでしょうかね。はい、岡本委員どうぞ。

(岡本委員)

どうも、寺池台一丁目で子育て支援のNPOをしています岡本です。

えっと、先月2人残念とか思う利用者さんのお話を聞いたんですが、北野田で暮らそうと思っていて、子育てしようと思ったけれども、富田林は待機児童ゼロだということを信じて、富田林に引っ越して来たんだけど、入れなかったチクショウ、と言われたのがひとつと、そういうのって、要は北野田で住もうと思うけれども、保育所が有るか無いかというだけで人はこうやってラインを超えて来るんだなというのが、すごく発見だったのが一点なので、なのでそれともうひとつ、富田林の住宅を探したんだけど、URさんすみません、若者規格じゃないということで、南海さんが開発された河内長野に引っ越されたというのが1件あって、なんて残念だと思うことがあったんです。なので、若者というか子育てしている世代の人たちというのは、もちろんさっきから話題になっている住環境とかもあると思うんですけど、住宅の状況とかそれから暮らしやすさとかということをすごく大事にして考えておられるんだなと思うのです。なのでやっぱり、サービスというか子育てできるサービス、保育園は絶対に待機児童出さないよという覚悟でやりきるとか、そこに若者が住めるような住宅というのがこう、駅の近くに集まることで、人はひょっとしたら北野田からでも引っ越して来るんちゃうかというぐらい思ったということが一点なので、そういう工夫を行政

サービスと企業と力を合わせてやっていけることがひとつ、未来への取り組みとして進めていったらいいんじゃないかということが一点です。

それから、あと二点あるんですけど、そうは言いながらも金剛の活動をしている中では空き家もすごく目立ってきていて、分割して分譲されているところはいいんですけど、もうすごい置き去りにされた民家とかが結構あったり、それから多分URさんも空いているところがいっぱいあるんじゃないかなという、血眼になっていろんなところを探しているんですけど、そういうところをさっきのアイデアの中でもあったように、CB、要はだれでもいいんですけど担い手は、シルバーさんでもいいですし、そのまちの人たちが組織された、ボランティアではなくって運営していく、固定資産税払ってはるはずだと思うんですよ、空き家にしても。だとしたらそのサービスとして還元していく仕組みをつくるのか。買物サービスって高齢者だけじゃなくって、子育て中の出産したばかりのママたち、手助けの無い人たちにもすごく必要なサービスなので、別に高齢者に限らずいろんな人たちの買物サービスとかっていうのもそういうので。もしできるんじゃないかなって。CBでできることって空き家の問題とか、買物の新たなサービスとかもできそうな気がするというのが二点目と。

あともうひとつは、小さい公園は役に立っていないかということ、実は子育てしている時にちょっと目の前に行ける公園ってものすごく助かっていたんです。かなり子どもが少なくなってきてちょっと出る公園に子どもがいない状態になっていることが問題で、金剛団地のあの小さな公園がいっぱいあるというのも、人さえ住めばきっと子どもが来るとは思うんですね。それはそれで必要とっていて。あともうひとつは、大きな公園にランニングしたり、自転車乗ってもいいよというところも必要で、錦織公園まで行かなくても寺池公園があるのになんていうのは3つ目に、ちょっとお金のかかる話かもしれないけどというので思いました。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。

では、似ているんだけど違うのが、取組例3が「子どもがまちで学び育つ・子育てしやすい環境をつくる」って書いてあるんだけど、むしろ「高齢者等の暮らしを多様な方法で支える」というのと同じように、子育て層の暮らしを支えるみたいなことがあるん違うかと、それは住宅も含めてですね、ここはどちらかということ子育て支援サービスみたいなだけで、暮らしみたいなことが抜けてるんで、少しその辺の視点は加えた方が上手いんじゃないかなというのは具体的な反映のさせ方として。

それともう一点、やっぱり気になるのは、コミュニティビジネスの促進と書いてあるんやけど、具体的にコミュニティビジネスの原則というのはどちらかということ公共サービスをアウトソーシングするというのがコミュニティビジネスの原則論ですから、具体的にどういう公共サービスをアウトソーシングしてコミュニティビジネスを育てるのかと、そのあたりがやっぱり市も真剣に考えて、具体的なものを書かないと、コミュニティビジネス等の促進で活動の場や情報の提供って話ではなくて、やはり行政サービスをどうアウトソーシングするかみたいな、その辺突っ込んで議論しないと実現しないだろうと。

あとは公園のところ、ちょっと私気になるのは、魅力づくりはいいんですけども、今の公園

はやっぱり参加がもう、短期でも原則ですから、要するに魅力づくりは単に行政に頼むのではなくて、使われる方々が参加してつくるんやというふうに、短期的にも必要で、やっぱりそう書いといたほうがいいんじゃないかなと。中長期にいかないとパークマネジメントがいけへんという話ではなくてですね。

あとはこれ、難しいのが多分この辺の取り組み例は空き家空きスペースのあたりで言えば、これはかなり先ほどから出ているように戸建住宅の課題と集合住宅でも賃貸の持ってる課題と分譲の持ってる課題、各々違いますので、もう少し丁寧に取り組み例を区分して具体的に詰めて行かないと実態として動いていかないかもしれないですね。住宅というものと施設というものとも、だいぶ違いますので、この辺りをもう少し、ここはもう少し分割して議論していかないといけないかなというのが、皆さん方のご指摘かと思えますけど。

あと、公団さんせっかく参加していただいていますので、医療福祉の拠点化というのはもう多分進められてると思うんですけど、ちょっとご紹介なり、いただければと思います。

(藤本委員)

私共URの方では、今年の1月にですね、金剛団地を地域医療福祉拠点化を図るべく着手しますと公表させていただいています。これは全国的に26年度からURとして取り組み始めておりまして、関西では現在、9つの団地で拠点化に着手しているというところです。地域福祉拠点化とは、何をするのかということですね、実は特に決めておりません。団地、それから団地の周りの状況、それから、あるいは介護・医療の事業者様の存在の有無とかですね、それぞれ持ってるポテンシャルというか、状況が違いますので、それぞれの団地に合った拠点化の進め方が何なのかということを考えながら進めているというところです。

金剛団地に関して、じゃあ何をやっているのかというところで申しますと、既の実現していることとしては、第三包括さんのサテライトの事務所ですね、我々の賃貸施設の方に誘致させていただいたことであり、それから、これから近々にやろうとしておりますのが、買物困難な方のためですね、移動店舗をですね、いずみ生協さんのご協力を得て団地内の数カ所にですね誘致をしようというような動きを、現在、団地の自治会様へのご相談とかご説明を踏まえつつ進めているというところです。あとは、これは市さんとの連携ということになりますけれども、総合支援事業という形ですね、いろいろな介護予防をですね、地域でやっていくという大きな流れがございますので、この流れを金剛団地の中で取り入れるにあたって我々の集会所をですね、ご活用いただく方向でいろいろと協議を進めさせていただいたり、現在お話できる内容としてはだいたいこんなような状況です。ただ、これにとどまらず、あるいはこの協議会の中でいろいろ地元の方々の直接のご意見を伺うチャンスでもありますので、この協議会の中で出てきたご意見について我々として何らか協力することで実現できるんじゃないかということについては積極的に検討していきたいなど、このように考えております。

(増田会長)

ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。小野先生、何かございませんか。はい。

(小野委員)

はい、今日すごく住民の皆様からのご意見を聞いて、やっぱり金剛という地域を非常に大切に思っていると言いますか、ある意味プライドと言いますか誇りを持っているというか、非常に感じられました。そういうふうにとれだけの人がその地域に思いを持てるかということは、これからのまちづくりにおいて決定的だと思っています。その上でなんです、やはり今のこの時代、基本少子高齢していく中で、ここまでの50年というのはどちらかという、右肩上がりと言いますか、経済的な成長の中で進捗するんだみたいなところがあつたのですが、そういうような状況が大きく変わる中で、じゃまちづくりはどうするのだったというのは全体的な危機共有で、今もう既に住んでいる方々がいる地域を再生、まあこの言葉どうかと思いますけれども、していくということで考えれば、最初建つときは、ハードがあつてそこに入るという感覚だったと思うのですが、今は既に住んでいる人たちがいてその人たちがどんな暮らしをそこで実現するか、あるいは今回の計画、例えば10年後でしたら10年後、あるいはもっとその先50年後どういうふうな生活を実現するか、ということがおそらく最終的な目標となっていくのだろうな。そのためにどういうことをやっていくか、まずソフトがあつて、そのためにハードをどうするっていう、そういう順番が今の段階では、もうひとつ必要になってくるのかな、まあこれまではどちらかというハードがあつてそこに入って来てその後どうするみたいな感じだったんですけど、今もう住んでますからそこでどんな生活ができるのといったところをめざしながらソフトをつくって、それにハードがちゃんと支援するような形になっていく、そういう発想も必要なのかなと思いました。

今もう内部的にはいろんなヒントがずいぶん出てきているので、一点だけ言わせていただきたいのは、先ほどの所にもかかるんですけど、少子高齢時代ですから、今もう高齢化率がこの地域が30%とか言ってますけど、10年後というのはその人たちがもう10歳上がるわけですから、いわば後期高齢者なんですね、後期高齢者の人たちが最後まで暮らせるか、更にそこに新しい若い人たちがどう入るかみたいな、結構ハードルがもう一歩が上がる課題になってくるんですけど、その時にやっぱりポイントはこれまで出てきているところで言うと、住民の方々が、どういうふうな参加型、あるいは参画型、前の所で言ったら参画しつていう話になるのですが、そういう方向で行くのか、あるいはやっぱり高齢者になるとサービスが必要なので、どうやって支えましょうかみたいな発想でいくのか、これは本当にもう地域に住んでいる方々が考えて方向性を決めていく話だと思うんです。いずれにせよ市民は少なくなっていくので、その上でやっぱり参加型でもっとつくっていかうよっていった形のメッセージでいくのか、やっぱりここに住むとこれだけのサービスがありますよっていうような形の地域づくりをしたと考えると、それによって、恐らく見え方がずいぶん違っていきんだらうなと思つていて、私は個人的には高齢者になつてもぜひ参加してもらいたい、あるいはサービス受けるばかりじゃなくて、受けながら参加する仕組みをどうつくるか、みたいなところをやっていかないと、全体的にはやっぱり難しくなる。で、子どもたちも同じで子どもたちも一方的に何かされる側ではなくて地域でつくる立場でもある、そういうイメージをこの方向性の中で入れられるのかどうか、この辺りは皆さんと話しながらいろいろ考えたいなと思つているところです。なんか、非常に面白くなりそうで期待します。私からは以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。山田委員どうぞ

(山田委員)

私、久野喜台二丁目の方に二年前に来まして、金剛地域というのをあんまり正直知らなくてですね、今までは外環から東、旧村地域の方に住んでまして、金剛地域はやっぱり魅力あるまちということで、そういう認識でずっといたんで、2年前に来させてもらっていただいたんですけども、今期私、久野喜台小学校のPTAの会長をさせていただいております、この地域のことについて子育て世代の方といろいろお話する機会がありまして、いろんな問題点であるとか、これから地域を良くしたいという方のご意見いろいろお伺いさせてもらったんですけど、基本的には本当に住みやすい、緑があふれて、公園とかがある地域だと思うんですね。ただ、いろんな考えお持ちになる方もおられるんですけども、やはり今人口減少、まあ言えばニュータウン問題のまっただ中にこの小学校地域があるということで、それは仕方がないことだと思うのですが、ただなぜ人口が減るのか、要するに子育て世代の方に対する魅力がないまちというのは、明らかにこの資料を見れば分かることだと思うんですけども、ただソフト面では地域は意外とニュータウンでも、例えばここは連合町会がないとおっしゃっているんですけども、金剛のすこネットというのと葛中すこネットというものがありまして、ある意味連合地区の町会的な情報共有であるとかいうことがあるんですね。私も本当に連合町会がないというのは何でかなと思ったんですけど、それに代わるものとして、そういうものが存在しているというのは、これからそういう意味では活用できるかな、もうひとつは、やっぱりそういう方のいろいろな子育て世代の意見を聞く機会をそういう所に焦点を当ててみてもいいのかなとひとつ思いました。

あと、久野喜台小学校地域というのは、府道202号線ですかね、森屋狭山線、それによって南北に分かれているわけなんですけど、昔は久野喜台二丁目とか寺池台一丁目の方ですね、南の方が人口もおおかった、もちろん団地がほぼ子どもの人口のウェイトを占めていたと思うんですけども、今逆転してまして、加太とか青葉丘とか五軒家とか、そちらの方の人口のほうが、子どもの人口の方が増えていきますね。向こうはある意味旧村地域みたいな形があるのか分からないですけども、地域の密着性とかすごい皆様がまとまっているんですね。ある意味私の見た感じでは、もう団地のエリアの方は、あんまりそういうまとまりがないように見えるんですね。これは何故かと考えたとき、やはり建物、つくられたまちの構成が、今の時代のニーズに合っていないのかなとは思いました。確かに5階建てですよ。賃貸の建物に関しては、若い世代の方々では、ベビーカーとか5階まであげるかといけば、多分無理だと思うんですね、それに対してURさんはどういうふうにお考えになっているか分からないんですけども、例えばエレベーターを付けたらということ、北の方のURさんよくやっておられますけれども、ただまあ賃料設定とか、エレベーターを付けることによって、利回りと言いますか収益が見込めないところに関しては積極的にはされてないのかなと、現に金剛地区のURの物件に関しては、エレベーター一基もないですね。ですよ、そういうのがやっぱりおいてけぼりにされているというか、まちのハード面が整備されていない、それひとつ大きな要因かなと思います。ただまあ建替えに関しては、昭和56年ですか新耐震に対して、今の建物、多分ほぼ既存不適格になっていると思うんですね。これをどういうふうに変えていくか、若しくは建替えしていくかというのが、大きな課題になってくるのかなと思います。

(溝口委員)

新耐震はクリアしています。

(増田会長)

あの、ちょっと気になるのは、統計上も、資料の方の10ページかな、克服すべき課題の10ページでよくこういうことをニュータウンで言うんですけれども、子育て世代の転出が非常に多い。これ見方としてはね、子育てがしにくいから転出しているのではなくて、元々ニュータウンで育てられた方が、世帯分離として出て行ってるんですね。親と一緒にの所で子育てができない住宅の問題で。一方では、やっぱりある部分子育て層入って来てくれてるんですね。やっぱりある一定入って来てこられてる方々はこういう魅力を持って金剛のこの地区に子育て層が入って来ているのかという見方をしないと、何となくこう見るとニュータウン全体が子育てに適していないみたいに統計的に見えるんですけれども、決してそうではなくて、旧村の方から移ってこられたと金剛の方に、ある一定そういう方々も結構いてるんですよ。トータルとしては要するに世帯分離で出ていく人が多いという、統計上のこれマジックで、あの元々子育てしてて不便だからどんどん出て行っているという話ではないんです。その辺の見方みたいなやつは統計上のマジックですから、本当に実体的な見方をして、ひょっとしたら新たに子育て層の方々がここに入ってきている、この大きな選択した理由は何なのかみたいなことをちゃんと見ていくと、ひょっとしたら隠れた見えていない魅力みたいなものも発見できると思うんですね。そうでないと、一言で年齢階層的に転出と転入の比較をしてみたら、当然減ってますといった話だけで終わってしまうと、見えなくなってしまうところがあるので、その辺りは少し見てほしいなあ。

(原山委員)

いいですか、今のおっしゃった関係で言いますけど、私、民生委員やって地区の福祉委員会となって子育てからいろんなことやっているんですが、小学校区の見守り隊、学校教研とも兼任していますが、その中で今年入学式で寺池台小学校一番多かったんですよ、人数がね、よそに行ったら20名というところもあるし、例えば高辺、久野喜、伏山ものすごく激減していますよね、そこに寺池が増えてきている。何かと、いろんな問題もあると思うのですが、今の若年層のいろんな若手が、何かがあるのでなかろうか、原因がね。

例えば、寺池でしたら地区が住宅も、一戸建ても皆新興住宅なんですね、よその地域へ行った場合は、旧村と新しいところも入っている。そこに意見の食い違いがある。そのようなわけで、寺池小学校の場合、いろんな自治会もあります、町内会もあります、小学校区として対応していろいろな催しを行っているわけですね。見守り隊も小学校区で代表選出してその中で選任してやっている。各町内会自治会だけでは、自分所のことは一生涯懸命はるけど、よそにはあまり口出ししない方がいいとか、誤解を招くから、なかなかよその自治会と自治会同士の交流というのはどうしても薄れている。それがネックになっているんじゃないかなと思います。だからやっぱりさっきから連合がないのは、金剛団地自体はものすごく世帯数多いんですね、金剛団地自治会は、それが連合となってきたら、また変わった意味の問題も発生するだろうし、そこらが問題になっているのと違うかと思っています。基本的には小学校区を単位とした地域づくりやったら、もっと活性化するんやなかろうかと思っています。

(増田会長)

その辺は少しじっくり考えるべきところですよ。堺市は、泉北ニュータウンは全部小学校区に連合自治会があるんですね。そういう仕組みが。面白いのは連合自治会の中で旧村を含む小学校区と旧村を含まない小学校区で大分雰囲気違うんですね。その辺の良さ悪さみたいなやつは、少し学習しながら

ら連合自治会のあり方みたいな話は考えていく必要があるでしょうね。

(吉村委員)

ここで言っているのか分からないのですが、地域の方とこういう会議に出るからといった話をするのですが、いろいろ計画とかやっても何も進んでいないって、特に高齢の方で思ってはって、バスももっと増やしてほしいという意見を言っているのに何も変わってないやないかということで、かなりのいら立ちと、本当にやる気があるのか的なのも思っておられるんで。やっぱり具体的に目の前にある、買い物に行けないとか、困っている方たくさんおられるので、そういうことはもう一方では考えて進めながらやらんと、何か全然住民のこと聞いてくれないという印象がすごく強い。それは是非、ここで言っているのか、富田林市か場合によっては南海バスの方とかね、お願いせなあかんことあると思うんですけども、やはりそこら辺もちょっと考えていかなくてはと言うことだけ。

(増田会長)

思いますね、それは我々もそうで、学験者で何回となく、策定委員会の座長ばかりしてるけど、全くまちは変わらへんやないかと、特に泉北に住んでいるものですから、石投げられるんちゃうかなと思っておりますけれども。少なくとも今回これいい点は、ここ2、3年での短期での実現をめざしてと、ということをちゃんと掲げながら展開して行って、やはりちょっとでもまちが変わりだしたなということが見えたら、いい方のスパイラルに入っていくと思うんですね。そうことは、ぜひともここにある行政の方々も地域の方々も、我々も含めて、やっぱり最初の一步を踏み出すというふうな覚悟でこれをやっていきたいと思っております。そうでないと何か知らんけど、絵に描いた餅ばかりやっていて、予算ばかり使って何も変わらないといった不満は、必ずあるものですから、行政だけの責任でなくて、この会としてそういうスタンスをしっかりと持ちながら明確にしていくとくことでしょう。

(友田委員)

私も地元のほうに入っていて、やっぱり見えてないと分からないですね、まちづくりの進むのが。最初のビジョンとかありましたけれども、今回10年を目標にするということで、じゃあ10年先どういうことめざしましょうとかいうのも、10年先ではなくても、ビジョンの中で、例えばバスの話であったり、連合会であったり、そういう将来像でこういうことめざしましょうねというのをやわらかく感覚持ちながらね。でもすぐにそこに行かないから、やっぱり当面はこういうステップを踏んでいきましょうというような形で、やっぱり将来像というものをぼやっと見せておいて、そしてそこに向かってまずはこういうステップを踏んでいくんですよって言う形で、やはり今までの課題に対して対応すると、我々も住民に対しての説明もしやすいし、みんなと一緒に取り組みましょうというスタンスもつくりやすいですからね。やはりまた将来像を10年以内のところぐらいできっちりと持って、ぼやっと持って、そして取り組んでいくと、こういうステップを踏んでいきましょうと。公園についても、やはりハードとソフトいるんですよ。ここの書き方やったら小さいハードとソフトのことからずっと積み上げて、結局これに行きますよという書き方になっているんですけども、やはりハードとソフト組み合わせ、将来的にはこういうことをめざしましょうと、しかしながらまずはこんなことしかできないですから、こういうことで取り組んでいきましょうねとか、住民参加の輪をもっとつくりたいといけなから、こういうステップでつくっていきましょうとかね、そういう仕組みのステップのある、動きの

ある計画にさせていただくと、我々もいろいろと地域の方々とお話しながら、進めていくことも可能になるかなと思うので、そういうちょっとアクションのあるような計画がいいかなというふうに思っています。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

だいたい今日。はい、はい。

(山田委員)

すみません、もう一点だけなんですけど、この金剛地区を東西に流れる森屋狭山線の件なんですけど、あそこ公害調停道路なんですよ確か。それが逆に片側一車線にしていることによって、慢性的な渋滞がずっと発生しているわけで、それが例えばうちの小学校区域でしたら、脇道に結局皆さんそれでいて、地域の見守り隊の方が結構ご苦労されているという話をよく聞くんですね。やはりこの地域の東西交通はあんまり道路の通行するところがなくて、たしか寺池の方のあそこも調停道路になっているんですね。その辺をまちとして発展させるために、インフラ整備というか、その辺は行政さんどう考えているか分からないですけども、ただ地域の方々も裁判して片側車線にしてしまったわけですけども、ただその周辺の沿道を見ると空き家が非常に目立っていたりとか、やはり渋滞するので使い勝手が悪い道路になっていたりと、その辺が結構ネックにもなってくるのかなと思います。

(増田会長)

はい、分かりました。ありがとうございました。

まだいろいろな意見あろうかと思えますけれども、ちょっと時間もオーバー気味ですので、そろそろにしたいなと思います。ただし、これ先ほどもありましたように数が限定されておりますので、お気づきの点があれば事務局にファクスやメール等でご意見を寄せていただくということも可能かと思えますので、その仕組みで事務局よろしいですかね？

(事務局；坂口)

はい。

(増田委員)

それで次回それご紹介いただいてこなしていくということやりたいと思いますので、

今日発言がいただけなかったり、あるいは少し時間の関係で、進行がまずくて意見を伺う時間を与えなかった部分もありますので、その辺対応お願いしたいと思います。

(溝口委員)

ちょっと事務局お願いしたいのですが、今回第一回目ということでこの庁舎でやるということなのですが、本来金剛地区の人たちが参加するという、今日もオブザーバー1人しかいない、だから次からは、意見交換会やった連絡所、あそこでやるようにしていただけるとありがたい。

(増田会長)

最後のスケジュール、今後のスケジュールですね、そのあたりのところ、最後に少し事務局の方から、その他として次回の協議会について、大まかな日程と場所の話ですね、そのへんお願いしたいと思います。

一点私の方、もう一点だけちょっと気になっているのが、この取り組み事例の中で、自分もあとちょっとで高齢者でありますけど、高齢者の人が楽しみながらここで生活をする、今までずっと都心で働いてきたわけですけど、時間的にも空間的にもこの金剛地区でほぼ365日使うとしたときの、高齢者の方々の楽しみとか生きがいとかいうあたりの内容がないですね。ひとつの例としては例えばうちの大学なんか木曜日に木曜講座というのをやっていて、大量に白鷺団地とかあの辺りから、高齢者の方々が生涯学習で来られたりするんですね。それもあつし、あるいは見守り隊をするというのが、ある意味高齢者にとっての生きがいであつたり喜びであつたりですよ、ある意味で。

(原山委員)

金剛地区には、3つの福祉委員会があります。福祉委員会が毎月催しやつて、計画立てて、そこに高齢者の方が参加されている。

(増田会長)

やっぱり楽しみながら生きるという、子育て層もそうですけど、高齢者にとって楽しみながらも生活するという視点をもう少しどこかに入れておいてほしいなど、実態としてあると思いますので、それだけ追加的に言わせていただいて、事務局の方に今後のスケジュールのところをお願いしたいと思います。

(事務局；坂口)

活発なご議論ありがとうございました。

続きまして、次第の5、その他としまして、次回協議会の開催について説明させていただきます。次回協議会の方は、スケジュールにもございますように、8月下旬から9月にかけての間での開催を予定しております。

会場につきましては、今もご意見も有りまして、各方面から金剛地区内で開催してはどうかといったご意見もいただいておりますので、おっしゃられています金剛連絡所2階ホールの方、今あたっているところでございます。

日程等も、あわせて調整させていただきます、また後日連絡させていただきたいと思いますが、7月中旬までには何とか決定して皆さんにお知らせしたいと考えております。

おそらくこの会議のまとめ資料と一緒におおまかな時間と日にちを案内できるかと思っておりますのでよろしく申し上げます。

資料の方も、今日いただきましたご意見等を基に、もう少しブラッシュしたものを次回協議会に向けて準備するとともに、7月31日の日に、こちらは市民の方対象に意見交換会を開催させていただきます。市民委員の皆様、またそちらの方よろしく申し上げます。

この意見交換会ですね、皆さんも参加していただくこと、会場来ていただくこと全くかまいませんので、興味のある方ぜひともお越しいただければと思いますので、よろしく申し上げます。以上でございます。

(増田会長)

ありがとうございました。

予定よりちょっと遅れましたけれどもこれで今日は。第一回目にしてはかなりの意見交換できたのかと、更に、市民の方々との意見交換会も開催されますし、後日また今日お気付きの点を事務局に意見を届けていただいても結構ですので、極力、きめ細かく対応しながら展開していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

本日はどうもありがとうございました。